

出会いに感謝

戸高裕貴

蛭川先生に初めてお目にかかったのは、大学1年次に受講していた「生徒指導」という授業でした。帽子を取らずに授業を受けようとする学生に注意したり、無駄話をする学生に出て行くよう促したり、授業に対する情熱や学生に対する熱心な姿勢に魅了されました。その授業の中で、教育者である原田隆史氏のコラムが配られ、その中から心に残った部分に3つ線を引きなさいという指示を受けました。そして、私が引いた部分と、蛭川先生が線を引いた部分が3つとも一致しており、それが嬉しくて将来的にはこの教授にお世話になりたいとその時思いました。

教員を志していた私は、2年次の春休みに、勇気を出して蛭川先生の研究室のドアをたたき、教員養成サークルに入部しました。3・4年次のゼミも蛭川先生の教員養成コースを選択し、ゼミ長も務めさせて頂きました。

ゼミの同期達は、野球部の主将、女子駅伝部のエースなど、バラエティに富んだメンバーに恵まれました。先生を交えて頻繁に交流会や旅行に出かけ、駅伝や野球部の応援には、ゼミ生で横断幕を作って駆けつけました。この中で切磋琢磨しながら学び、生涯の友をつくることができました。

蛭川先生が最も大切に、私たち学生に教えてくれたことの大きな一つに「協調性」があります。教員養成サークルやゼミの面接でも必ず協調性があるか問われ、授業や活動の中でも常々協調性を持つようにと指導して頂きました。私は今、宮崎県の高等学校に勤務していますが、生徒達を指導する中で最も大事にしていることが、協調性を持った生徒を育てることです。蛭川先生に教え

て頂き、これを信念に日々教育活動を行っています。

蛭川先生は、厳しさの中に、暖かさ、愛情が溢れている私が目指すべき教育者です。普段は厳しいことも言いますが、本当に困った時には優しく手を差し伸べてくれました。大学4年次の私の教育実習の際には、遠く宮崎県まで足を運んで下さり、的確なアドバイスも頂きました。卒業後の進路も、埼玉県立深谷商業高等学校を紹介して頂き、そこで出会った先輩教師や生徒達から学んだことが、私の現在を支えています。

思い出していけば、本当に終わりが無いくらいに蛭川先生から頂いた指導や、数え切れない恩が溢れてきます。右も左も分からないままに宮崎から埼玉へ出てきた私にとって、蛭川先生との出会いは何にも代えられない貴重なものとなっています。先生に出会わなければ、絶対に今の私はありません。親元を離れて大学で過ごす間、埼玉の親父と思って慕わせて頂きました。同じ教職という道を志している私にとって蛭川先生は、いつまでも目標であり、憧れでもあります。

長年、学生の教育に尽力されたことに敬意を示すと共に、蛭川先生の教え子ということに誇りを持って生きていきたいと思えます。

今後も蛭川先生並びに母校城西大学のご健勝・ご多幸をお祈りいたします。